

平成23年度 千葉市教育研究会社会科部会 6月例会

千葉市教育研究会社会科部会の研究

社会の形成者として主体的に判断し、行動する力を育てる社会科学習のあり方

千葉市立こてはし台中学校社会科部会の研究主題

確かな学力の定着を図る指導法の工夫 ー習得から活用へー

貧窮問答歌

風まじり 雨降る夜の 雨まじり
雪降る夜は 術もなく 寒くしあれば
堅塩を 取りつづしろひ 糟湯酒
うちすすろひて 咳ぶかひ
鼻びしびしに しかとあらぬ
髭かき撫でて 吾を除きて
人は在らじと 誇ろへど
寒くしあれば 麻ぶすま
ひき被り 布肩衣
有りのことごと 服装へども
寒き夜すらを 我よりも
貧しき人の 父母は
飢え寒からむ 妻子どもは
乞いて泣くらむ 此のときは
如何にしつつか 汝が世は渡る

天地は 廣しといへど
吾が為は 狭くやなりぬる
日月は 照りや給はぬ
人皆か 我のみや然る
わくらばに 人とはあるを
人並みに 我も作れるを
綿もなき 布肩衣の 海松の如
わわけさがれる かかふのみ 肩に打ち懸け
伏庵の 曲庵のうちに 直土に わら解き敷きて
父母は 枕の方に 妻子どもは 足の方に
かくみいて うれへさまよひ
竈には 火気ふきたてず 甑には 蜘蛛の巣懸きて
飯炊く ことも忘れて 奴延鳥の のどよひをるに
いとくきて 短きものを 端切ると 云へるが如く
楚取る 里長が声は 寝屋戸まで 来立ち呼びひぬ
斯くばかり 術無きものか 世の中の道

世間を 憂しと 瘦さしと 思へども
飛び立ちかねつ 鳥にしあらねば

- | | | | |
|-------|-------------|-------|----------|
| ・研究授業 | 14:00～14:50 | 本校舎3階 | 1年E組教室 |
| ・協議会 | 15:10～ | 本校舎1階 | P.T.A会議室 |
- 〈内容〉
1. 挨拶等
 2. 本校の研究の概要について
 3. 授業について
 4. 協議会
 5. 指導・助言
 6. 連絡その他

平成23年6月21日（火）
千葉市立こてはし台中学校

社会科学習指導案

展開学級 1 学年E組
展開場所 1 学年E組教室
授業者 行木 昌夫

- 1 単元名 第2章 古代までの日本
3 奈良時代の人々の暮らし

2 単元について

(1) 学習指導要領の趣旨から

学習指導要領の改訂にあたり、社会科教育の目標は

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、わが国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

と、従前から変わっていない。それ以前の目標との相違点は、

- ①社会に対する関心を高めること。
- ②諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する力を養うこと。
- ③我が国の国土と歴史に対する愛情を深めること。

の3点となる。

いわゆる「ゆとり教育」で指導時間数が大幅に削減されながらもこれらの実現を求められていたことは、私たち教員にとってとても負担の大きなことであった。特に歴史的分野においてはそれまでも頭を痛めてきた。年間授業時数が削減される中で、生徒たちに歴史の大きな流れをつかませ、いかに構造的な理解力、多角的・多面的な考察力を高めるかという目標に照らして考えると、方法論の大転換が必要になってくる。今回の改訂では約10%の指導時間増が実現されることになり、多少なりともゆとりをもって指導できるようになることは歓迎すべきことであろう。

ところで社会科の新旧目標各文中における「公民的資質」だが、昭和44年版小学校学習指導書・社会編には

公民的資質というのは、社会生活のうえで個人に認められた権利は、これを大切に行使し、互いに尊重しあわなければならないこと。また具体的な地域社会や国家の一員としてみずから課せられた各種の義務や社会的責任があることなどを知り、これらの理解に基づいて正しい判断や行動のできる能力や意識などをさす。

とあり、この概念は現在まで一貫して変わっていない。「公民的資質」とは知識の習得にとどまらず、むしろ態度や能力形成に重点を置く概念である。社会科教育を受けた生徒が義務教育終了段階で「公民的資質の基礎が育成された状態」になることが本教育の目標だ。その「状態」とは以下のようなものだろう。

「正確に社会を認識する能力を身につけており、その社会をより豊かなものにしようとする主体的行動する意欲や能力をもっている状態」

教育課程はたびたび改訂されるが、歴史・地理・公民の基本的枠組みは変わっていないわけだから、中学校3年間の社会科教育は次のように構造化することができるだろう。

3 学年における公民的分野では、政治・経済・社会等、現実社会の事象やしぐみを学ぶ。生徒がそのときの学習に「準・公民(公民的資質の基礎が身に付く直前段階の意)」として取り組むには、1・2 学年の段階で社会に対する興味・関心や資料を多角的・多面的に判断する力を身につけておく必要がある。したがってこのような力を身につけることが、地理的分野と歴史的分野を学ぶ(1・2 学年)生徒の到達目標となるだろう。

この「準・公民」養成過程では、提示された(もしくは自ら収集した)資料から多くの情報をすくい取り、判断し、まとめ(発表)する力が必要になる。これこそが「社会科学習の基礎・基本」であろうし、この学習過程によって「自ら学ぶ力」が身につくものと考えられよう。

(2) 生徒の実態から (省略)

(3) 単元の目標と教材観

ここでは、東アジア情勢の変化によってわが国の安全保障や国家体制の強化のために政治制度を大きく変えようとした時代について学ぶ。それまでの氏姓制度に代わって大陸から輸入された「律令」政治が始まる。

事前アンケート結果から分かるように多くの生徒は大化の改新を単なる暗殺事件ととらえている。生徒にとっては聖徳太子の政治や暗殺事件、奈良の大仏などが、頭の中で離れ小島のように浮かんでいるだけなのだろう。

蘇我入鹿暗殺は改新の第一歩でしかない。「歴史の大きな流れをつかませる」には、東アジアの情勢から始まり、聖徳太子の政策について理解すること、それから暗殺事件の翌年（646年）元旦に出された「改新の詔」に関する理解が必要だ。その後の貴族政治、武家政治という歴史の流れは、班田収授を基礎とする律令政治の始まりと崩壊の過程を理解することではじめてつながっていく。

この単元で、歴史がダイナミックなものであるという概念を身につけてさせておきたい。例えば

- ⑤ 藤原道長の強大な権力構造を説明するには「荘園」についての理解が必要。
- ④ 私有地である「荘園」について理解するには、奈良時代の「墾田永年私財法」によって律令制度の一つの基礎である「公地公民制」の成立から崩壊までの過程に関する理解が必要。
- ③ 我が国の「公地公民制」は、律令政治への転換を発表した646年「改心の詔」に遡る。蘇我入鹿暗殺はそのために行われたのであること。改新の内容に知識理解が必要。
- ② 「公地公民制」をはじめとする「中央集権制」を目指すために「律令」政治が導入された。
- ① 教科書にその記述はないが、「律令」は隋に始まり唐で発展した。

これらに関して①～⑤の順に流れを理解していて初めて、その後の歴史（武士の起り）などにつながっていく。

そうでなければ武士は、その後の歴史の舞台に突然現れたことになってしまい、歴史認識の正確さや学習の楽しさを欠くことになる。

（中略）

だからこそ歴史の必然性にこだわった学習展開が重要になろう。たとえば⑤という「結果」は④という「原因」で成り立つ。更に③は④の原因になっている。いわば「風が吹けば桶屋が儲かる」的な連続性、歴史のダイナミズムがそこにある。このように歴史的な事象はひとつの原因から複数の結果につながることもあるし、複数の原因から単一の結果が導き出されることもある。あるいは歴史の舞台から一度消え去ったことがらが伏線となり、後に再び結果として現れることもある。このような連続性や総体を理解する認識のしかたを「構造的な理解」と呼びたいし、それが「正確に社会を認識する能力」だと考える。「公民的資質」の前提として、ものごとをこのように理解する能力が必要になるだろう。

本単元ではまず「大陸と肩を並べる国になるために政治や外交政策の改革が行われた」ということをおさえる必要がある。そのため東アジアの情勢について、中国と朝鮮半島の変化を教科書や資料集の年代地図で確認しておき、次に聖徳太子の政治について、煬帝に送った手紙からその真意を探る。すすんだ国力、高い分化を誇る国を目指したという聖徳太子の真意について、深入りしない程度に押さえ、彼の政策との関連をもたせてまとめたい。

東アジア情勢の急激な変化によって、安全保障の充実と国力の引き上げが求められたことが、わが国の律令体制始動の背景にある。大化の改新はこのような国際情勢から求められたことであって、単なる暗殺事件ではない。社会のしくみが律令体制封建制度に変わり国力が大幅に引き上げられたことと、反面で多くの人々の生活が逼迫していったことが説明できる生徒になるよう指導したい。そのような律令体制も、その根本をなす「班田収授」の崩れと大陸からの離脱が国風文化を生み出していったことをおさえたい。その中で仏教や文化、律令体制の成立と崩壊という視点からこれらの時代を俯瞰し、総体的・構造的なとらえ方とはこういうものだという実感をさせたい。

もう一点、生徒自身の理解を自己認識させるための「ノートづくり」指導である。最終的には生徒が自力で「ノートが作れること」を目標としたい。だからそのためには授業の中でどんなことをつかむ必要があるかを明確に指導したいと考えている。

3 単元の目標

- (1) 東アジアの情勢を背景にしながら、聖徳太子の政治から平安時代までのわが国の政治の移り変わりについて流れを理解させる。
- (2) 政治において中央集権制の確立と人々のくらしの対比や、飛鳥～平安時代の歴史的遺産・仏教などの文化から、この時代の特徴をつかませる。

4 単元の指導計画（全10時間）

- (1) 隋と唐・聖徳太子の政治改革・・・・・・・・・・ 1時間
- (2) 大化の改新・律令国家の成立・・・・・・・・・・ 1時間
- (3) 平城京・奈良時代の人々のくらし・・・・・・・・ 1時間
- (4) 天平文化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (5) 奈良時代の人々のくらし・・・・・・・・・・・・ 1時間（本時 5/10）
- (6) 人々の身分・開墾のすすめ・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (7) 国風文化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (8) 摂関政治と国司・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (9) 武士のおこり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (10) 源平の戦い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

5 本時の指導

(1) 目標

- ・ 農民の暮らしと既習事項を比較して奈良時代について新しいイメージをもつことができる。
- ・ 資料や既習事項を関連させて理解し、ノートに学習内容を効果的にまとめることができる。
- ・ 歴史学習に進んで取り組もうとする関心・意欲・態度を育てる。

(2) 展開

時配	学習内容と活動	指導上の留意点	評価	備考・資料
導入 7分	I. 前時をふり返る。 (1) 奈良時代を表すイメージを、理由とともに発表する。 ・ オレンジ、紫、金、など ・ 四角、丸、大仏 など 《その理由》 ・ 東大寺や盧遮那仏が造られた ・ 平城京がつくられた ・ 聖武天皇 ・ 正倉院の宝物 ・ 仏教が広がった ・ 鑑真の来日 ・ 貴族中心の時代だった ・ 遣唐使の派遣 等	1. 奈良時代に関して既習事項を想起させる。	1. 奈良時代について既習事項が発表できる。 （知識・理解） 2. 奈良時代をイメージしてその理由とともに色や形、ことばで表すことができる。 （関心・意欲・態度）	※4～6人のグループにする。 ① PC×2 ② プロジェクター ③ スクリーン ③ 大型TV
奈良時代、多くの人々はどのように暮らしていたのだろうか				
展開	II. 「貧窮問答歌」を読み、奈良時代の人々のくらしについて学ぶ。 (1) 出典、作者を知る。 (2) 音読し、長歌のリズムを味わう。	2. 貧窮問答歌を提示する。 3. 「万葉集」「山上憶良」を確認する。 4. 一度読み方を示範し、長歌のリズムを味わわせる。大きな声で読ませる。ノートに感想を書かせる。	3. 長歌のリズムを味わい、感想を書くことができたか。	⑤ 配付資料「貧窮問答歌」あらかじめ配付しておく。

33分	<p>(3) 感想を発表する。</p> <p>(4) 内容をつかむために班ごとに話し合う。結果を発表する。</p> <p>① 季節はいつか ② どんな家に住んでいるか ③ 食事はどうか ④ 里長は何と言っているか</p> <p>(5) 話し合ったことを発表する。</p> <p>① 「雨まじり雪降る夜の」というところから季節は冬だとわかる。 ② 「伏庵の曲庵」というところから、竪穴式住居に住んでいたことがわかる。 ③ 「竈には火の気がない」というところから、しばらくご飯を食べていないことがわかる。 ④ 税を払えと言っている。</p> <p>《予想される発表》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米の収穫からそれほど時間が経っていないのに米が食べられない。 ・奈良時代になっても、多くの人々がまだたて穴住居に住んでいたとは思わなかった。 ・辛く苦しい生活をしていたのだなあ。 ・貴族の暮らしぶりや都の華やかさと比べて農民たちは可哀想だ。 ・自分なら耐えられないだろう。 	<p>5. 感じ取ったことがらを発表させる。</p> <p>6. 資料のどの部分からそれが分かるのかを説明できるようにさせる。</p> <p>7. 画像やムービーなどを見せ、理解を深めさせる。</p>	<p>(関心・意欲)</p> <p>4.各項目について資料からつかむことができたか。(知・理)</p> <p>5.積極的に話し合うことができたか。(関心・意欲)</p> <p>6.奈良時代について新しいイメージをもつことができたか。(関心・意欲)</p>
まとめ 10分	<p>III.</p> <p>(1) 奈良時代について再びイメージしてみよう。</p> <p>《予想されるイメージ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒、灰色、青、 ・暗い ・ゆがんでいる など <p>(2) 学習内容をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ</p> <p>奈良時代、平城京はとても華やかだったが、多くの人々が苦しい生活をしていた。</p> </div>	<p>7. 奈良時代のイメージについて既習事項と比較しながらもう一度考えさせ、色や形で再度表すよう指示する。</p> <p>8. 学習問題をふり返って、まとめを考えさせる。</p>	<p>7. 奈良時代について、本字の学習を基礎に再びイメージできたか。(思考・判断)</p> <p>8. 奈良時代の人々の生活についてまとめることができる。</p>

・まとめ(必要に応じて掲示)

(3) 評価

- 農民の暮らしについて理解し、奈良時代について新しいイメージを持つことができたか。
- 話し合いや意見をまとめるために必要な情報を取捨選択できたか。
- ノートに学習内容や感想を効率的にまとめることができたか。
- 歴史学習に対し、より奥深く取り組もうとする意欲や態度が育ったか。

6 配布資料 (省略)

平成23年度 千葉市教育研究会社会科部会 6月例会

千葉市教育研究会社会科部会の研究

社会の形成者として主体的に判断し、行動する力を育てる社会科学習のあり方

千葉市立こてはし台中学校社会科部会の研究主題

確かな学力の定着を図る指導法の工夫 ー習得から活用へー

貧窮問答歌

風まじり 雨降る夜の 雨まじり
雪降る夜は 術もなく 寒くしあれば
堅塩を 取りつづしろひ 糟湯酒
うちすすろひて 咳ぶかひ
鼻びしびしに しかとあらぬ
髭かき撫でて 吾を除きて
人は在らじと 誇ろへど
寒くしあれば 麻ぶすま
ひき被り 布肩衣
有りのことごと 服装へども
寒き夜すらを 我よりも
貧しき人の 父母は
飢え寒からむ 妻子どもは
乞いて泣くらむ 此のときは
如何にしつつか 汝が世は渡る

天地は 廣しといへど
吾が為は 狭くやなりぬる
日月は 照りや給はぬ
人皆か 我のみや然る
わくらばに 人とはあるを
人並みに 我も作れるを
綿もなき 布肩衣の 海松の如
わわけさがれる かかふのみ 肩に打ち懸け
伏庵の 曲庵のうちに 直土に わら解き敷きて
父母は 枕の方に 妻子どもは 足の方に
かくみいて うれへさまよひ
竈には 火気ふきたてず 甑には 蜘蛛の巣懸きて
飯炊く ことも忘れて 奴延鳥の のどよひをるに
いとくきて 短きものを 端切ると 云へるが如く
楚取る 里長が声は 寝屋戸まで 来立ち呼びひぬ
斯くばかり 術無きものか 世の中の道

世間を 憂しと 瘦さしと 思へども
飛び立ちかねつ 鳥にしあらねば

- | | | | |
|-------|-------------|-------|----------|
| ・研究授業 | 14:00～14:50 | 本校舎3階 | 1年E組教室 |
| ・協議会 | 15:10～ | 本校舎1階 | P T A会議室 |
- 〈内容〉
1. 挨拶等
 2. 本校の研究の概要について
 3. 授業について
 4. 協議会
 5. 指導・助言
 6. 連絡その他

平成23年6月21日(火)
千葉市立こてはし台中学校